

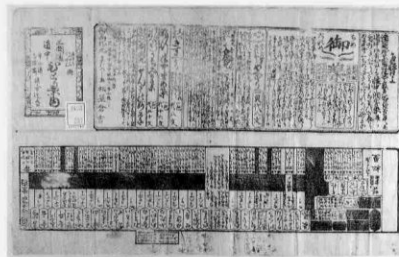


この「三国 街道中ひとり案内」は高崎からの各宿と宿場間の距離、その間の運賃（本馬・軽尻・人足）などが印刷されています（縦24cm×横38cm）。本馬は、40貫目程（約150kg）までの荷物を付けられる歌馬で武家の公用では一定の賃銭で使用できました。軽尻とは、馬に荷物を付けずに人か乗ること（5貫目＝約19kgまでの荷物なら付けて可能）です。

三国街道は、中山道高崎宿から分岐し、金古（群馬町）・渋川（渋川市）・金井（同）・北牧（子持村）・横堀（同）・中山（高山村）・塚原（月夜野町）・布施（新治村、下新田・今宿を含む場合もあり）・須川（新治村）・相俣（同）・永井（同）を経て越後国に入ります。越後国内では、浅見から長岡へ至り、与板を経て寺泊へ達しました。江戸時代上野国から越後国への道は、この他清水峠越えや入山村（現六合村入山）を通る道筋、四万温泉・木根宿（現中之条町）より福山から浅見宿へ至る道筋や、中山道本庄宿から玉村・総社・八木原などを経て渋川宿（三国街道へ合流）へ至る佐渡奉行街道などがありますが、最も往来が多かったのは三国街道です。越後諸大名の参勤交代や金山統括の佐渡奉行（渋川から通行）の通り道となり、宿駅も整備され江戸と越後を結ぶ幹線路の役割を果たしました。

（参考資料）『群馬県史』通史編5 646～652頁、687～698頁

宿場	距離
高崎	二里半
金古	三里十丁余
しふ（渋）川	二八丁
金井	二八丁
あかつま（吾妻）川あり	
北もく（牧）	二八丁
よこほり（横堀）	三里十三丁
中山	二里
つかはら（塚原）	二九丁
いまだん（今宿）	
下しんでん（新田）	
ふせ（布施）	一里十丁
すかハ（須川）	二里
相また（俣）	一里十二丁
なかる（永井）	三里半八丁
あさかい（浅見）	二里八丁
ふたる（二居）	二里十八丁
ゆさハ（湯沢）	二里八丁
せき（関）	二里
しおさハ（塩沢）	二里八丁
六日まち（町）	二八丁
五日まち（町）	二里
うらさ（浦佐）	一里二十八丁
ほりの（堀之内）	二里二十八丁
うおの（魚野）川あり	二里二十丁
川くち（口）	三里十八丁
めうけん（妙見）	六丁
六日いち（市）	三里
長岡	



「三国街道中ひとり案内」の全体